

歴史まち歩き

34

柳橋市場～円頓寺本町

【名古屋駅前ミッドランドスクエア一階▶円頓寺商店街本町】

都心のまん中にある市場巡りと下町の情緒を味わう

名古屋駅前の柳橋中央市場を見学。桂芳院では愚痴聞き地蔵さん、地元で愛される那古野地蔵堂に参拝。下町情緒残る円頓寺商店街本町界隈までを巡ります。

1 柳橋市場

民間中央市場としては全国最大規模。明治後期に自然発生的に生まれた万物問屋をまとめたのが市場の始まり。飲食店のプロだけでなく、一般市民も買い物ができる市場として、名古屋市民に愛されています。マルナカでは週に何度か、社長自らがツアーガイドを務める市場巡り体験もできます。おもしろいのは、名古屋駅から徒歩圏内、都会のビルの谷間にこうした市場があることです。

食材のプロと料理人が集まる時間帯(早朝～8:30くらいまで)は一般の人は遠慮しましょう。真剣勝負をしている現場に素人が行くべきではないので、そこは大人のルールとして覚えておきたいものです。安くておいしいお店が早朝から営業しているので、ルールさえ守ればそれ目当てで行くのも楽しいと思います。

2 坪内逍遙が11歳～18歳を過ごした住居跡(現在はマンション)

坪内逍遙が、岐阜県生まれの名古屋育ちであることはそれほど知られていません。明治維新と共に実家のある笹島村に戻ったのだそうです。名古屋では、貸本屋に通いつめたことが、後の小説家としての基礎になったともいわれているので、日本文学にとっても名古屋のこの場所はとても大きな意味を持つと言っても過言ではありません。

3 愚痴聞き地蔵(桂芳院 けいほういん)

桂芳院の庭の一角に、愚痴聞き地蔵として知られるお地蔵様があります。「どうぞ自由に」の案内のままに入ってゆくと、こちらに耳を傾けてくれているお地蔵様、その前には腰掛けるための椅子も用意されています。悩みや愚痴、秘密を聞いてくれるといわれています。ちょっと座ってみようかな、と思って座ると、なぜだか不思議。お寺の建物を背にしてお地蔵さんと向き合う形になるからか、なんともいえない安心感で、独り言をいってしまいたいようになります。人通りも少ない道路なので、一人になれる(お地蔵さんと二人?)空間になっています。よく考えられています。

4 那古野地蔵堂

揖斐川を流れていたお地蔵様をひろいあげて祀った桑原利左衛門が、那古野の場所に移り住んだ時に一緒に移築したとされるお地蔵様。現在は駐車場の一角に祀られています。小さな祠なのに屋根瓦はとても立派なので驚きます。お隣の交番のおまわりさんに聞いてみても詳細はわかりません。なんでもこのお地蔵さんの持ち主は、お地蔵さん管理費を駐車場の持ち主に支払っているとか?まことしやかな噂だけが存在しています(隣接する交番のおまわりさん情報)。いずれにしても、屋根瓦の立派さは必見です。



5 円頓寺本町商店街

円頓寺商店街は、江川線をはさんで東と西に分かれており、西側が本町です。このコースでは円頓寺本町商店街をご紹介します。アーケードのある商店街、昭和の香りがぶんぶんするので、昭和を描くドラマのロケ地としてよく撮影に利用されています。記憶に新しいところでは、映画「WAYA! 宇宙一のおせっかい大作戦」などです。

6 円頓寺本町商店街にある多賀宮の「おもかる石」

アーケード商店街の中にある多賀宮に、おもかる石と呼ばれる石があります。まず石を持って重さを感じ、その後、願いが叶うとその石を持って軽く感じるといわれています。この辺りの人は日常的にこの多賀宮にお参りしており、そのたびにおもかる石を両手で持っては重さを確かめている姿が多く見られます。多賀宮は多賀大社から明治に分社されたもの。神社そのものの全体にアーケードがかかっているところもおもしろいですね。